

尾張温泉郷

天然温泉が湧き出るこの地域に、温泉を活用した町施設の「足湯かにえの郷」が平成18年に「多世代交流施設（泉人）」が平成30年に完成し、憩いの場として親しまれている。また、春には温泉通りの桜が咲き乱れ、冬にはイルミネーションなどと四季を通して楽しめるエリア。

観光交流センター（祭人）

ユネスコ無形文化遺産に登録された須成祭をメインテーマとし平成30年に完成した施設。町の観光拠点として、観光・産業の復興、交流、人口の拡大、地域の活性化を図ることを目的としている。

魚釣り

「水郷蟹江」は、へら鮎釣りのメッカとして全国的に有名で佐屋川をはじめ善太川や蟹江川へ、釣り人が季節を通じて訪れる。

花き

ポットマムの鉢物栽培から始まり、現在は、消費者のニーズにあわせた各種鉢物・切花・観葉を生産しており、東北・関東・九州まで広く出荷している。

蟹江城址公園

永享年間(1429~1441)に北条時任が築いたとされる蟹江城は天正12年(1584)の蟹江合戦において織田・徳川連合軍により落城した。現在は、「蟹江城址」の石碑と本丸井戸を残すのみで、石碑周辺が公園として保存・整備されている。

吉川英治句碑

戦時中、作家吉川英治がこの地を訪れて、その自然の美しさを詠んだもので、佐屋川河口の土手に「佐屋川の土手もみちかし月こよひ」のが句碑が建っている。

伝 信長街道

若き織田信長が、清州攻めの際に通っていったといわれる道。須成善敬寺から北へ続く細い道で、織田木瓜の旗印が道に記されている。

文学苑（鹿島神社）

「東海の潮来」と作家吉川英治が絶賛した水郷地域を、文学的遺産として後世に残すため、神社境内に句碑を建て、ここを文学苑とした。山口誓子、中村汀女らの句碑が26基あり、文学的な香りを町に漂わせている。

須成祭

富吉建速神社・八剱社の祭礼で、疫病退散を祈願する「天王信仰」に由来する。「車楽船行事」と「神葎流し」を中心に数々の行事があり、例年8月第1土曜日に「宵祭」、翌日曜日に「朝祭」が行われる。平成24年に国指定重要無形文化財となり、平成28年ユネスコ無形文化遺産へ登録された。

龍照院

本尊である木造十一面観音立像は国の重要文化財となっており、毎月18日に公開されている。その他、木造大日如来坐像、鱧口(以上町文化財)、イチョウ(町天然記念物)を所蔵している。

富吉建速神社・八剱社

富吉建速神社本殿、八剱社本殿はともに国重要文化財で、令和2年度に檜皮葺の屋根等がユネスコ無形文化遺産「伝統建築工匠の技」により修復された。須成祭はこの神社の祭礼として行われており、須成祭山車人形(手・面)などの文化財を所蔵している。

源氏塚

平治の乱(1159)で敗れた源義朝が内海へ逃れる途中、この地へ立ち寄ったとされる。現在は石碑が建てられ、源氏塚公園となっている。

▶文化財指定状況 令和元年10月15日現在

名称	指定区分	所在地及び所有者	名称	指定区分	所在地及び所有者
木造十一面観音立像	国重要文化財	須成 龍照院	木造狛犬	町文化財	須成 富吉建速神社
富吉建速神社本殿	国重要文化財	須成 富吉建速神社	石造狛犬	町文化財	
八剱社本殿	国重要文化財	八剱社	神前鏡	町文化財	八剱社
須成祭の車楽船	国重要無形	須成 須成文化財	五社造宮棟札(天正7年(1579))	町文化財	須成 龍照院
行事と神葎流し	民族文化財	保護委員会	須成龍照院イチョウ	町文化財	
絹本着色文殊菩薩画像	県文化財	蟹江新町 地藏寺	舟入中部神明社イチョウ	町文化財	舟入中部 神明社
絹本着色千手観音画像	県文化財	蟹江新町 地藏寺	木造薬師如来立像	町文化財	城二丁目 安楽寺
須成祭山車人形(面・手)	町文化財	須成 富吉建速神社	木造大日如来坐像	町文化財	須成 龍照院
彩色陶製狛犬	町文化財		鱧口	町文化財	
鑄造釣灯籠	町文化財		八剱社	蟹江新町日吉神楽	町文化財

▶登録文化財

名称	区分	所在地及び所有者
甘強味淋旧本社事務所・工場・住宅主屋・土蔵	国登録文化財	城四丁目 甘強酒造株式会社・個人
山口家住宅主屋・茶室・表門	国登録文化財	城四丁目 個人

資料：蟹江町歴史民俗資料館